

つるおか芸文だより

第13回鶴岡市芸術祭賞決定

大賞に日本舞踊 柏樹流

第13回鶴岡市芸術祭は9月2日の開幕式典に始まり12月9日までの間49団体40公演が行われました。

今年は荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）のフルオープンにより会員の皆様の芸術祭への関心も高まり、全公演への入場者も二万五千人余となりました。

12月23日は東京第一ホテル鶴岡で閉幕のつどいが開催されました。芸術祭賞の授与が行われ、会員同士お互いの労をねぎらい喜び合い交流を深めました。



柏樹流公演 感動のフィナーレ

《評》創流35周年記念 柏樹流舞踊公演

今年には創流35周年を迎え一段と華やかな公演で、美しい庄内の風景（映像）をバックにした舞踊には日頃の精進・研鑽の跡が如実に結実し、その迫力には観客の皆様も大いに魅了されていました。



12月23日 閉幕のつどいにて

優秀賞には七団体が選ばれました

優秀賞（順不同）

- ※朝日俳句・短歌・川柳合同展（朝日俳句の会）
- ※第84回つるおか小品盆栽展（鶴岡小品盆栽会）
- ※如月会水墨画展（如月会）
- ※八沢会 唄と踊りのつどい（八沢会）
- ※みんなの音楽会「鶴岡放送児童合唱団定期演奏会」（鶴岡放送児童合唱団）
- ※バウムクーヘン オータムコンサート（バウムクーヘン）
- ※第78回公演「ゴロゴロ五郎太落っこちた」（劇団だいこん座）

総力結集 感動共有の芸術祭



特定非営利活動法人
鶴岡市芸術文化協会
会長 東山昭子

豊かな四季の移ろいと共に、広い鶴岡市の全地域が独自に育んできた多様な文化。老若男女すべての世代の人々がつながる壮大なファンタジーを、いのちの水で表現しようとした開幕公演。脚本演出担当の佐藤正一氏を中核に、各人が個性的な役割を果たし、協働した「愛と美の感動」の開幕公演は見事成功した。1分ほどしか舞台に立てないのに、毎回練習に参加して下さった方々もある市民力に、この地の底力を誇らしく思えた。開幕式典前日から続いた3か月余りの鶴岡市芸術祭。毎日どこかで公演とそとのための準備が元気に続き、審査員の方々が寸暇を惜しんで公平に誠実にその役割を果たして下さる、まさに「いのち輝く鶴岡」の一体感が喜びとして噴出した「芸術祭」であった。ご協賛会員ご後援各団体の皆様に感謝である。共催の鶴岡市教育委員会の皆様との連携も、明るさ満杯だった。異分野集積の40公演。「友情の証」を基底に真摯に選考された中で、受賞の榮に浴された大賞・優秀賞受賞各団体の進歩性・創造性に溢れた公演は、注いだ熱意まで含め見事であった。おめでとうございます。閉幕の集いに結集した200名をこえる会員の皆様、次世代育成と未加入団体加盟促進や若者集団の後押しなど、未来形成につながる努力を重ね、新時代に備えましょう。来年度は元号も新たな節目の年。更なるお力添えをお願いします。

優秀賞受賞7団体



如水会水墨画展 (如水会)



第84回つるおか小品盆栽展 (鶴岡小品盆栽会)



朝日俳句・短歌・川柳合同展
(朝日俳句の会)



baumクーヘン
オータムコンサート
(baumクーヘン)



八沢会
唄と踊りのつどい
(八沢会)

第78回公演
『ゴロゴロ五郎太落っこちた』
(劇団だいこん座)



みんなの音楽会
『鶴岡放送児童合唱団定期演奏会』
(鶴岡放送児童合唱団)



特別参加2団体の公演



第70回荘内書道展覧会
鶴岡書道会

鶴岡、田川地区よりの保・幼・小・中・高からの応募作品が昨年より多く、約1,300点の展示となりました。学年ごと、学校ごと、高さなど、見やすい展示を心掛けました。多くの出品数を見込みたので、要項などの配布時期を早めたいと思います。
(佐藤政二)



初めてのタクトでの定期演奏会
鶴岡土曜会混声合唱団

新ホールでの初めての演奏会は大雪の中、大勢のお客様にご来場いただきました。管弦楽伴奏でソロには本市出身の若手と日本を代表する歌手を迎え、華やかな演奏会となりました。
一週間前札幌での全国大会の演奏曲も市民の皆様披露することができました。これからもタクトをより活用できるように合唱活動を続けていきます。
(阿部淳二)

●12月8日
●荘銀タクト鶴岡

齋藤茂吉文化賞受賞 おめでとうございます

藤島芸術文化協会 会長
阿部 月山子 氏



この度の齋藤茂吉文化賞を受賞出来ました事、本当に有りがたいと思っております。審査員の方々に心から御礼申し上げます。俳句を始めてから50年以上になりますが、まだまだ勉強不足と思っております。昨年、角川書店の「歳時記」が12年ぶりの改訂版、第五版が出版されました。私の句も、年間トータルで四句から八句に増えた事は大変うれしい事でした。これからも茂吉文化賞にふさわしいような作品を発表できるように努力していきたいと思っております。

きく びより ちし たま ぶんかしょう 菊日和知事より賜ふ文化賞

若い世代に日本の芸術文化に触れ親しむ機会を設けることにより、子ども達の豊かな心と感性を育み、世代間交流の場を創り出し、地域への愛着と誇りの醸成を図り、芸術文化の継承・発展を目的として、県の受託事業で行われている。今年度の総合型文化クラブモデル事業は6地区で68回

平成30年度 総合型文化クラブモデル事業

開催され、延べ1,215名の子も達が参加した。



詩吟



ちぎり絵



茶道

平成30年度 総合型文化クラブモデル事業 実施状況

地区	開催数	参加者数(延べ)	実施分野
櫛引西小放課後子ども教室	2	24	茶道
上郷地区放課後子ども教室	30	383	尺八・文化箏・茶道・伝統食
豊浦地区放課後子ども教室(三瀬)	2	69	伝統食
豊浦地区放課後子ども教室(由良)	20	296	詩吟・民話・フラダンス・茶道
おおやま放課後子ども教室	8	237	ちぎり絵・合唱・茶道・伝統食
西郷地区放課後子ども教室	6	206	ちぎり絵・フラダンス・茶道・伝統食
合計	68	1,215	9種

県民芸術祭開幕で魅せた鶴岡の創造力

鶴岡市教育委員会教育長 加藤 忍



しました。加盟団体はじめ関係各位のご尽力に心より感謝を申し上げます。今回は市芸術祭の開幕と共に、県内最大の文化の祭典である県民芸術祭の開幕式典・記念公演が、20年振りに鶴岡で開催されたこともあり、県内各地

秋の風物詩となりました鶴岡市芸術祭も13回を数え、今年度も盛会裏に閉幕しました。加藤団体はじめ関係各位のご尽力に心より感謝を申し上げます。今回は市芸術祭の開幕と共に、県内最大の文化の祭典である県民芸術祭の開幕式典・記念公演が、20年振りに鶴岡で開催されたこともあり、県内各地

込んだ鶴岡らしい作品を、多くの皆様と共有できましたことに、改めて御礼を申し上げます。また県のモデル事業として始まった「総合型文化クラブ」も、子どもたちが伝統文化に触れる機会を創出する場として定着してきましたが、来年度以降も継続いただけると伺っております。子どもたちの創造性を育み、世代間交流を活性化するこうした活動こそ、市民全体の心豊かな生活の実現に欠かせないものと認識しており、皆様には引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

第13回 鶴岡市芸術祭参加公演



東山昭子会長挨拶



皆川治市長挨拶

第13回鶴岡市芸術祭閉幕のつどい

部門別各代表 選考委員の方々の感想



邦楽・日舞・民謡民舞・吟詠部門

小林 功

邦楽・日舞・民謡民舞・吟詠部門は、いずれも特有の歴史をもち、芸術祭にふさわしい力量と華やかさで舞台を構成し、その表現力から公演の奥義が如何なく発揮されていて観客との一体感も醸成され、感銘を与えてくれたようです。

その中で、日舞の柏樹流の大賞受賞は、会員に大きな自信と勇気を与えてくれたように思います。おめでとう。



洋楽部門

堀 公明

どの団体も個性ある演奏でよく観客と和し音楽を楽しんでいた。また、新しく結成された吹奏楽団の新鮮な存在には夢があり若い人達に希望を持って迎えられるのが印象的であった。各音楽団体には今後一層の努力を重ね作品の中に在る音楽を深く読み美しく歌うことに努力して欲しいものです。それと音楽はタクトを気軽に利用出来たらいいですね。



洋舞・演劇部門

五十嵐 重良

今回の洋舞・演劇部門は3公演。どれも意欲溢れる舞台をみせてくれました。現代舞踊は素晴らしい創作と鍛錬された美しい踊り。

演劇は社会の今、家族の有り様をオリジナルストーリーで熱演。バレエは「眠れる森の美女」全幕という鶴岡ではみることの出来ない企画で、思いが伝わる圧巻の舞台でした。



展示・茶道・華道部門

小林 良市

展示部門は絵画・書道・写真・盆栽等の14、茶道3部門、華道1部門。どの作品にも、どの会場にも、ふるさと賛歌の気分が満ち来場者の共感を誘っていました。出展までには、苦勞も喜びもあつた筈です。鑑賞もまた立派な芸文活動。より多くの市民が会場に出かけて出展者との交流をはかり、芸文活動の輪を広げていきたいものです。



文芸部門(民俗芸能部門含む)

日向 常浩

人間精神的な豊かさをより多く持つ事は、生きてゆくのに大なる糧となり、その為に芸術はあると思います。会の皆さんは日々研鑽する事で楽しい人生



大衆芸能部門

久保田 豊

を送っておられ、そしてすばらしい成果を発表しております。中には子供達への指導を行っている会もあり、将来彼等の為に大変役に立つと思えます。多くの会で子供達の人形形成の為に指導よろしく。

「雲の峯 幾つ崩れて 月の山」これは芭蕉が、庄内を訪れて詠んだ句です。

この月山の麓にあるのが旧朝日村です。ここで学ぶ子供は、俳句を詠みます。年1回行う朝日俳句・短歌・川柳合同展に、小学1年から中学3年までの俳句261句が、短冊に書かれています。来し方のこと、郷土のこと、将来のこと、見る者の胸を打ちます。

鶴岡市芸術祭賞選考委員会部門別会議日程

部門	日程・会場
邦楽・日舞 民謡民舞・吟詠	平成30年11月26日(月) 中央公民館(第2会議室)
大衆芸能	平成30年10月29日(月) 中央公民館(第2会議室)
洋楽	平成30年11月27日(火) アートフォーラム(会議室2)
洋舞・演劇	平成30年11月26日(月) 中央公民館(第2研修室)
展示・茶道・華道	平成30年12月1日(土) アートフォーラム(会議室2)
文芸	平成30年10月30日(火) アートフォーラム(会議室2)



地域文化伝承の使命感を担って

● 9月9日
● 中央公民館

満席のお客様の前で

● 9月9日
● アートフォーラム

あつみ作品展

● 9月21日～24日
● 温海ふれあいセンター



9月1日鶴岡市芸術祭のトップを切つて開幕、今夏も厳しい気象条件でしたが、嬉しいことに一般応募者が増加、出品者数、出品点数共に増加し2000点を超え、206点に達しました。出品作品も会員一般共に個性豊かな秀作、力作揃い、特に高校生のそれぞれの想いと個性溢れる作品は好評を博し、会場全体に活力を与え充実した展覧会となりました。(五十嵐千恵子)



季節が改まった時期の開催日で、同地域内では様々なイベントが重なり、また残念ながら天候に恵まれなかった事もあり、聴衆の出足は今一つの感はあったが、会員夫々の個性ある語り振りに日頃の語りのポランテニア時などでの精進が窺われる。方言は決してわからぬ言葉ではなく、会員はより語彙の多さを心懸け語りを続けていく。(菅原正朝)



出品数は52点(昨年比マイナス1)軸・色紙8号(昨年比プラス6)10号(昨年比マイナス5)小中サイズが増えた。全日展で上位入賞作品から初心者の作品まで幅広く、内容も一層充実した展覧会となりました。入場者は初めての人から常連者と多数(223名)でした。(梅本幸仙)

若手の活躍光る 『白鷺社賞』(一般)高校生受賞

● 9月1日～12日
● アートフォーラム

お前はんの語りも聞かせどくねへちや

● 9月9日
● 健康の里ふくら

如月会 水墨画展

● 9月20日～23日
● 中央公民館

あつみ作品展

● 9月21日～24日
● 温海ふれあいセンター

会発足以来54回目の公演も、関係各位のご協力の元に無事終了出来た事は、感無量です。毎回の事ながら、会の最重要事業でしたから会員も反省し、達成感を味わいながら次回の日標を見据えております。私共は、伝承文化の継承、伝承者としての使命感を持って、その責任を果たす事が第一義であると思っています。(佐藤 睦)



アートフォーラムのオープンな雰囲気の中、気軽に吹奏楽を楽しんでいただきたという企画のもと開催した当初の公演は、没後百年にあたるフランスの作曲家ドビュッシーの小組曲を中心に多彩な演目を演奏しました。沢山のお客様からご来場いただき、満席・盛況のうちに終了することになり、演奏する者として、至上の喜びでした。(加藤 聡)



あつみ作品展は、温海文化祭の前に会員の作品発表の場として長らく親しまれております。温海ふれあいセンターのロビーを使って作品の展示を行っております。呈茶も行うようになり、作品を観ながら時間を過ごす方々も多くなりました。(粕谷洋子)

第40回 記念展

佳陽会



● 9月21日～30日
● アートフォーラム

今回は第40回の記念すべき展覧会なので、特別展となり、師の故伊藤喜久井先生と故久留見子さんの作品も借りして飾った。

それに、会員の色紙も展示し、総数102点の作品数となった。

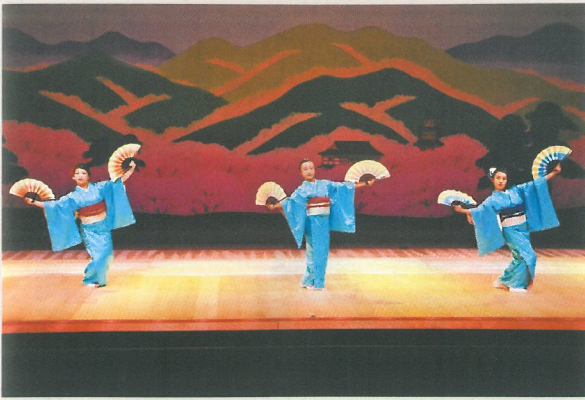
会場を広くお借りしゆったりして、作品との距離も程良く、なつかしい作品が観られてよかったという声もあった。

(茅野 淑)

日本舞踊千川流鶴岡舞踊会

日本舞踊千川流

● 9月22日
● 荘銀タクト鶴岡



8年ぶりの日本舞踊千川流鶴岡舞踊会は素踊り形式での開催でした。観客動員が上手に出来なかった課題も残りましたが、日頃より情熱的に日本舞踊に取り組んでいる鶴岡、酒田の教室門弟による古典舞踊、新舞踊、歌舞伎を取り交ぜての踊りは、お客様と一体化した楽しい舞台であったと自負しております。

(千川貴棠)

一服どうぞ

茶道裏千家淡交会庄内支部鶴岡地区



● 9月23日
● 出羽庄内国際村

素晴らしい秋晴れに恵まれた一日でした。濃茶席、薄茶席の二席でしたが、床の間の茶花、道具の取り合せ等、初秋の風情をどのようにして席のなかで現そうかと苦勞しました。席入りした皆様には楽しい一時を過ごしていただいた事と思っております。これから皆様にも楽しいお茶を差し上げられるように頑張っております。

(小林宗健)

第49回 錦心流琵琶演奏会

琵琶で語る歴史物語
錦心流琵琶全国一水会鶴岡支部

● 9月23日
● 中央公民館



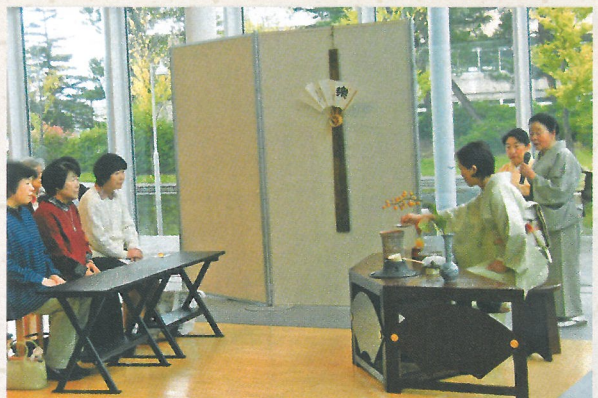
今年には明治百五十年の節目に当たり、それに因んだ物語り4曲や会員の得意な曲を取り入れ11曲の物語りを演じました。日頃の研さんもあって、昇伝者や教師免状者の披露演奏等素晴らしい技能向上がありました。

又、近原(酒田・新潟・秋田)支部交流演奏は幅広い絆となり、互いに有意義な楽しい交流となりました。

(市川清治)

古の誰が袖に寄せて

遠州流茶道山形支部



● 9月30日
● アートフォーラム

心配した天候もおだやかでお客様も大勢でした。朝一番に遠来のベトナムの方達が入席し、彼の国の陶磁器「安南の茶碗」や花入で喜ばれ、思いがけない国際交流の場面もありました。一席は花嫁衣裳と誰が袖の菓子。二席は楽のお軸に外国種の珍しい花や実、柿と瓢箪の干菓子で秋の気配を楽しんでいただきました。

(堀 宗敬)

絵画として楽しむ

鶴岡和紙ちぎり絵サークル

● 10月4日～8日
● アートフォーラム



「えのぐは全然使っていないのですか。」と問われ「はい和紙だけです。」と言うと、驚かれます。和紙を使っている表現もはるかしくなるとうれしくなります。

題材も増えてきているようです。あくまでも和紙の風合いを生かしながら、絵画として楽しんでもらえるよう、みなさんの言葉を励みに、これからも精進していきます。

(中島陽子)



第19回定期演奏会

スイング・クレイムズ・ジャズ・オーケストラ

●10月8日
●荘銀タクト鶴岡

奇しくも今回のゲストは鶴岡文化会館での最後の演奏会の時と同じ渡辺真知子さんをお迎えました。

還暦を迎えて取組んでいる楽曲の披露もあり、相変わらずパワフルな歌声とパフォーマンスに、大入満員のお客様は勿論、ステージで演奏する我々も大いに楽しめたステージでした。

(橋本祥造)



創流35周年記念鶴岡本部舞踊公演

日本舞踊 柏樹流

●10月7日
●荘銀タクト鶴岡

暫らくぶりの本舞台を会員一同懸命に務めました。当日台風の影響もありましたがその影響もなく、お客様の入りも思ったより良く酒田方面からもバスを立てご来場下さいました。

会員も高齢化していますが、日舞の基本を大切にし若い人達がお稽古に臨めるよう、一舞台一舞台を大切に思い、努力して参りたいと思います。

(柏樹京徳)



鶴岡市合同短歌会を終えて

第56回鶴岡市合同短歌会

●10月14日
●アートフォーラム

会場には秋の情景が広がり、特に松の緑と実物の色が調和し、来場者から手の平に乗るような小さな盆栽である「盆裁」を手に楽しめたとの感想をいただきました。これも会員一同、夏期の天候不安定の中、一生懸命管理にあたったご褒美だと思います。

(上林節男)

「茂吉記念館」館長の秋葉四郎先生を講師に招き、全出詠者53名の歌評をわかりやすく丁寧に頂き、また先生への質問疑問にも答えてくださり大変勉強になりました。講演の「大人の短歌入門」もとても好評でした。合同短歌会に出席して作歌意欲が沸き上がったとの声も聞かれ有意義な実のある短歌会だったと思います。

(佐々木秀子)



第84回つるおか小品盆栽展

鶴岡小品盆栽会

●10月12日～14日
●中央公民館



第42回吟詠大会

日本九重流鶴城清吟会

●10月14日
●中央公民館

加入団体が減少し、会員の高齢化もすんだが、内容は多彩でまさに大衆芸能を地で行きました。唄や踊りに加えて尺八と箏の演奏があり、養護老人施設「友江荘」の入居者の踊りや、老人センター利用者サークル(水香踊り)も出演し、高齢者の頑張りが目立ち、国際交流等で培った実力を大切に、頑張ります。

(鈴木 末)

『心に残る俳句と漢詩を詠う』をテーマに構成吟を公演した。松尾芭蕉は庄内にどの様な足跡を残したか、また、秋の詩情風景を演じ、静の吟詠に詩舞・剣舞・書道を取り入れ吟と調和した舞台演出し、聴衆を魅了した。幼稚園児が童詩を詩吟のリズムに合わせて一生懸命演じ、又、地元社会人の吟詠も会場の方々を引き付けた公演であった。

(松本歎洲)

老いも若きも

八沢会

●10月14日
●荘銀タクト鶴岡



第55回各流派合同いけばな展

鶴岡市いけばな7流派

●10月20日～21日
●アートフォーラム



第55回となる今年は2,959名の方々にご来場頂きました。会場の一階と二階に各流派の特徴を生かしながら出瓶者が個性を発揮した179作品を展示し、多くの皆様に「秋のいけばな」を楽しんで頂きました。

来年も日本の伝統文化である「いけばな」を楽しんで頂けるよう、更に研鑽を積んでいきたいと思えます。

(宮田真由美)

古の出羽三山を詠ず

九重流朝陽清吟会

●10月21日
●東京第一ホテル鶴岡



江戸時代末期に出羽三山を度々参詣した庄内藩の教育者、上野鳳山翁が残した六十首の中から選り構成した。その情景は、明治政府による廃仏棄釈によって羽黒山内にあった三十一の寺院は取り壊され、三ヶ寺を残すのみ。然し三山に寄せる信仰の心は、日本遺産に認定。風雅を愛し名所旧蹟を巡っての作品を本邦初公開とした。

(百瀬皓洲)

第25回飛雲会展を終えて

書道研究 飛雲会

●10月24日～28日
●アートフォーラム



会を重ねること25回、高齢化の中、作品は益々円熟味を増し、県内外で活躍する会員には敬意を表します。

広い会場には、書体や形体の大小さまざまな作品が悠然とした雰囲気醸し出し、観覧に来られた方々を和の世界に引き込んでいた様子が好印象でした。次回の糧となることでしょう。

(渡部飛雲)

会員達の初めての扇面挑戦

一東書道会鶴岡支部 群雅会

●10月26日～28日
●アートフォーラム



私としては扇面に書く事は多々ありましたが、今展覧会では会員にも、扇子に初挑戦してもらいました。

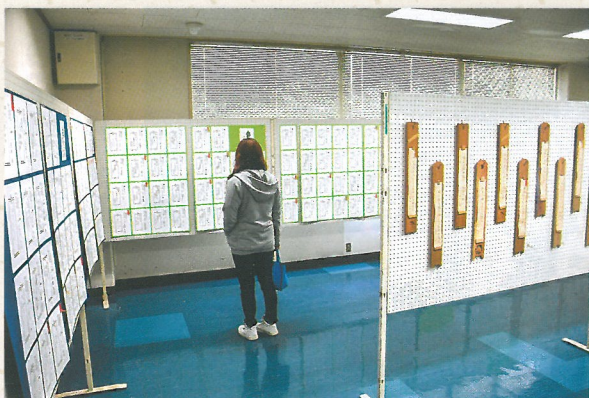
百均で色々な柄の物を捜して書いたようで、苦労はしていました。壁や机の上に飾った時は、華やかで、雅な雰囲気醸し出して、会場においていただいたお客様にも好評で、36周年も無事に終了致しました。

(阿部律子)

朝日俳句・短歌・川柳合同展

朝日俳句の会 ほか

●10月27日～11月4日
●朝日中央コミセン



今年も、あさひ産業文化まつりの開催期間に合わせて、朝日俳句・短歌・川柳合同展を開催しました。

俳句部門では、今年度も小中学生から多くの出品があり、合同展の出品点数が296点と、大変見ごたえのある展示になりました。

俳句などを通して、これからも学ぶことの楽しさを追いつめていきたいものです。

(小野寺一郎)

秋の茶会

表千家同門会山形県支部庄内地区

●10月28日
●致道館



準備から雨となり、当日も空を見上げた一日でしたが、朝から大勢のお客様が入席いただきました。

この季節雨の日は寒いので待合のお客様には申し訳ありませんでした。反省です。これからもおいしいお茶をおもてなしするべく精進いたします。隣に座った男の子が一口飲んで「おいしい」とニコリ、とても嬉しく思いました。

(安達那子)



独自のテーマ徹底追求の作品展示

●10月31日～11月4日
●アートフォーラム
●庄内写真研究会

今年25回目となる発表会は、各自独自のテーマを徹底追求の作品を発表しました。特に、誰もが通ったことがある『みち』をモノクロで表現し、あの日あの時を想いだす作品と、故郷の山を四季ごとの絶景を撮った作品を多数出品しました。ご高覧の皆さんから熱意と感動が伝わったと大好評を頂き盛況に終了しました。

(佐藤時彦)



**第31回庄内なつメロ会発表会
歌と踊りのチャリティショー**

●10月28日
●荘銀タクト鶴岡
●庄内なつメロ会

旧会館から中央公民館、今回の新会館へと収容人員の変化に対応、難問でしたがクリアし大いに喜んでいただけました。今回は流行歌の原点に戻り、時代を懐かしんで頂ける事を基本に構成し、それが好評でした。会館への苦言については、私どもでは如何ともしがたいことでした。次回それに対応した知恵を思っています。

(加藤隆三)



フォトサロン写楽写真展覧会

●11月7日～11日
●アートフォーラム
●フォトサロン写楽

写真展覧会のメインテーマはそれぞれの視点。皆様から感動して頂ける様な作品を目指し撮り続けました。物事を伝える手段として言葉や文章があります。一枚の写真は千の言葉を語る」と言われるほど写真には伝える力があります。また写真は思い出を振り返るもの、真実を伝えるもの、伝えることができずましたら幸に存じます。

(岡崎利男)



**小さなものにも命感じて
未来を歌う子どもたちの歌声**

●11月3日
●中央公民館
●鶴岡放送児童合唱団

鶴岡放送児童合唱団は創立されて今年で72年目を迎えました。団員は中学生10名、小学生16名の26名です。今年度のステージは3部構成で、幅広いレパートリーを表現豊かに歌い上げました。優しさや愛情、そして哀しみの次へと続く希望や未来は子どもたちそのものです。これからも子どもたちの活気あるステージを目指します。

(伴 和香子)



明治ホールで謡仕舞・雛子の競演

●11月11日
●明治ホール
●鶴岡五雲会・庄内白水会・羽黒水謡会・庄内謡曲愛好会

日本文化の華の一つである能楽に親しみ、研鑽を積んでいる四団体が一同道して発表を行いました。今年には旧藤島町にある東田川文化記念館明治ホールの会場に、明治の雰囲気の中で行われました。ベテランにまじって小学生の女の子による可愛い仕舞もあって楽しい一日を過ごしました。

(相馬一廣)



第6回フォト・アイ写真展

●11月7日～11日
●アートフォーラム
●フォト・アイ

会員各自がテーマを設け、それに添った作品を70点展示しました。各人の作品の前には、作者の意図やねらいをパネルで表示したので見易かったと思います。他に「ふれあいコーナー」というのを特設して、親しみ易いように工夫しました。多数の方々にご覧頂き、貴重なご意見を賜りましたこと深謝します。

(池田真祥)

長い道のりに感謝して創った舞台

● 11月11日
● 荘銀タクト鶴岡
吉統舞踊学園



出演者全員の心がひとつになり、記念公演にふさわしい舞台を創る事が出来た事がうれしい。広い舞台を所せましと踊る姿が、さえ渡り照明の中で華となり実を結ぶ事が出来たと実感し、連ねた作品も記念公演に無くてはならないものとして感動を呼ぶ事が出来た。これまでの長い道に思いをはせ、ただ感謝あるのみです。

(吉統正義)

H30 秋季さつき展

鶴岡さつき盆栽研究会



● 11月16日～18日
● 中央公民館

今年の秋季展は春の花季展の様な華やかさはありませんが、樹形見る楽しさを強調し、主に直幹、模様木、文人根上り等を中心に85鉢を展示しました。

多くのご来場者よりご賛同戴き盛況に終える事が出来ました。今後とも一層精進し会員それぞれ丹精込め工夫して今後の展示会を盛り上げてゆきたいと思っております。

(大井 清)

劇団だいこん座第78回公演 「ゴロゴロ五郎太落っこちた」

● 11月17日
● 中央公民館



冷たい雨の降る中、だいこん座公演「ゴロゴロ五郎太落っこちた」に、たくさんの方々が足を運んで頂きました。ありがとうございました。今年は県民芸術祭開幕公演もあり多忙な一年でしたが、一方で若い劇団員が大いに成長できた一年でもありました。これからも感動の舞台をお届けできますよう、稽古に励みたいと思います。

(さとつひでき)

第16回バウムクーヘン オータムコンサート

バウムクーヘン



● 11月23日
● 荘銀タクト鶴岡

今年度は荘銀タクト鶴岡が完成してから初めての公演となり、出演した生徒さん達も新しいホールでの演奏を大変喜んでくれました。本番では120%の力を発揮し素敵なコンサートになりました。

小さな演奏家たちが立派な演奏家へと成長するのを支えられる様指導者一同、これからも精進して参りたいと思っております。

(中山祥子)

「剣と扇の舞」

剣聖流剣詩舞鶴岡剣聖会

● 11月23日
● 東京第一ホテル鶴岡



テーマは3月他界された宗家が遺された数々の舞の中から構成舞「もののふの心意気」「日本の歴史・自然への思い」の2タイトルに一般剣詩舞を加え20演目企画しました。舞台が進行する毎に会員の熱演と観客の熱気が会場が盛り上がり一体となる事ができ、お客様に感動を与えられたと確信しています。故宗家の意志を大切に今後も舞い続けて行きたいと思っております。

(佐藤昌直)

Viviバレエ56周年特別公演 「眠れる森の美女」全幕

Viviバレエスタジオ

● 11月25日
● 荘銀タクト鶴岡



眠れる森の美女全幕公演に向かって、生徒、父兄、プロのダンサーが共に一緒になって、大きな作品を作り上げたと思います。

生徒にとりまして、大変貴重な経験になったと思います。これからもこの貴重な経験を励みに、練習を続けていってほしいと思います。

(佐藤京子)



第34回定期演奏会
鶴岡吹奏楽団

●12月9日
●荘銀タクト鶴岡

今回は荘銀タクト鶴岡での初めての定期演奏会なので、第1部では祝典をテーマに、第2部ではお祝いに欠かせないお酒をテーマにプログラムを構成しました。

演奏会前日からの大雪が心配されましたが、来場された多くの皆様のおかげで大雪を融かすような熱気に包まれた会場となり、団員一同楽しく演奏することができました。

(高橋宏知)



第11回写画はぐる會員写真展
写画はぐる

●11月29日～12月2日
●アートフォーラム

会員8名が各自のテーマで取り組んだ出羽三山の修行、大鳥居解体工事、秋田金沢冬の旅、月山高原、鳥海山、陸羽西線、水辺ほとりの写真作品を展示。作品説明に会員の顔写真を添えるやりかたは継続した。写真を前にして多くの方と語りあえたことは楽しかった。

(榎本重彦)



大勢の観客を魅了！ 富士島の芸術文化祭
ふじしま文化フェスティバル2018

作品展示・文化講演会・芸能発表会・音楽祭

●10月12日～11月11日
●藤島地区地域活動センターほか

ふじしま文化フェスティバルが10月12日から約1か月間開催されました。メインとなる第47回藤島芸術文化祭は10月26日から28日まで開催され、絵画など245点が展示されました。



27日は合同茶会、民話の語り、文化講演会「よしもとお笑いトークショー」が開催されました。

28日の芸能発表会では、9団体2個人が18演目を披露し、大盛況でした。また11月3日には、第29回ふじしま音楽祭が開催され、16団体346名が出演し、幼児から高齢者まで幅広い年代の方々が思いのハーマニーを奏でていました。

期間中、5地区の芸術祭に加え、各小中学校及び庄内農業高校でも文化祭が催され、多くの市民が芸術の秋を楽しみました。

(ふじしま文化フェスティバル 実行委員会)



多彩な内容で観客をとりこに
第34回 はぐる秋まつり

作品展示・芸能発表・囲碁・将棋・俳句大会

●11月2日～11月5日
●羽黒体育館・羽黒コミセンほか

『はぐる秋まつり 芸術文化祭』が今年も11月2日から5日までの日程で開催され、作品展示、芸能発表、囲碁・将棋・俳句大会が行われました。



展示部門は羽黒体育館アリーナを会場に、書道・絵画・写真・手芸など1,220点の多彩な作品が展示されました。また、篆刻や金継ぎなど今までにない分野の作品も出展され、見ごたえのある展示となりました。

4日の芸能発表会は羽黒コミュニティセンターを会場に幼児から大人まで18団体178名が参加し、歌あり、踊りありの様々な発表に会場は盛り上がりました。フィナーレでは観客も一緒に「鶴岡市民歌」を歌い盛会の内に幕を閉じました。

天候にも恵まれ、多くの市民が会場に足を運んでくれました。

(羽黒芸術文化祭 実行委員会)

生き生きと発表 感動の文化祭

第50回 くしびき文化祭

文化財めぐり・作品展示・まなびいステージ

●10月14日～11月18日
●櫛引生涯学習センター ほか

くしびき文化祭は、第50回の節目の年を迎え、10月14日の研修部門の文化財めぐりからスタートしました。河北町紅花資料館と、天童出羽桜美術館を訪れ地元の観光ガイドの説明を受け、歴史文化を深く学ぶことができました。



11月2日から4日までの展示部門では、地域の保育園や小学校をはじめ、地域内外から書道・絵画・写真・手芸・サークル活動作品など、526点の多彩な作品展示となりました。



公演発表部門「まなびいステージ」では、櫛引芸文協加盟団体発表・地域小学校児童による伝統保存の踊りなど13団体の出演で大いに盛りあげられました。特別出演プロサックスプレイヤーとその仲間たちのバンド演奏は、特に会場が一体となり大きな拍手を受けて、文化祭のフィナーレを飾ることができました。

(くしびき文化祭実行委員会)

芸術文化の秋を満喫

平成30年度 あさひ産業文化まつり

朝日中学校合唱祭・作品展示

●10月27日～11月4日
●朝日中央コミセン ほか

10月27日のあさひ小学校学校祭、朝日中学校合唱祭を皮切りに、作品展示が10月27日から11月4日まで、芸能発表や屋外でのおまつり広場は11月3日に開催されました。

作品展示部門では、書道・絵画・写真、俳句、短歌、川柳、生け花、手芸創作品など、地域の皆さんの個性豊かな力作1,169点が展示され、大勢の方々が鑑賞されました。



また、メイン日である11月3日は、芸能発表部門として11団体14演目が披露されました。各団体とも日頃の練習の成果を発揮し、力のこもった発表に会場は大いに盛り上がり惜しみない拍手が送られました。

当日はこのほかに、おまつり広場として地域の商工業者、産直、ボランティア団体などによる出店もあり、朝日地域の芸術文化活動の成果と産業等を広くPRするとともに、実りの秋を多くの皆さんが満喫する一日となりました。

(あさひ産業文化まつり実行委員会)

オール温海の祭典、感動・感謝!! 実感

第35回 温海文化祭

展示部門・ステージ部門・茶会

●10月26日～11月4日
●温海ふれあいセンター

展示部門における出展数・出展者数、ステージ部門でのステージ数・出演者数加えて茶席数の全てが、昨年を超える成果であった。

受付・誘導、福祉施設や婦人会のバザー等での「ボランティア養成講座」受講の中学生の協力は大きなもの。ステージ発表では、三年前に特別出演頂いた、鶴岡竹友会様以来久々に、鶴岡のよさこい踊りの皆さんが一般出演して下さった。



来場者の昼食・休憩場所の確保を優先し、茶席作りや展示コーナーの見直し等、新たな試みが功を奏した感あり。

反面、展示方法や各コーナーの動線等に再考、検討の余地あり。

常により良い結果を求め、多くの意見や要望を取り入れる作業と幼児から卒寿超え迄の「オール温海の祭典」を念頭に、ご縁のある他地域とのステージ交流も継続していきたい。

(温海文化祭実行委員会)

第47回 芸能のつどい

総合型文化クラブモデル事業の成果も発表

平成31年2月9日(土)
鶴岡市中央公民館

若い世代の育成支援

市内の邦楽・邦舞の団体による合同公演「第47回芸能のつどい」が、今年も盛会のうちに幕を閉じました。旧文化会館の開館当初から回を重ねてきたこの公演は、伝統文化の普及発展に力を注いでこられた方々により、日頃の精進の成果を披露する場として大切に繋がれてまいりました。

この歴史ある舞台に、県のモデル事業である鶴岡市総合型文化クラブの皆様が出演され、今年で2年目を迎えました。伝統文化を通じた、子どもたちとの関わりがもたらす影響、特に、指導にあたってくださった団体の皆様の熱意には、この事業のねらいの一つでもある「多世代交流」の一端と、今後の公演、そして参加団体の活動そのものが、更に拡がる可能性を見た思いがいたします。

また、総合型文化クラブの本来の目的でもある子どもたちへの働きかけでは、子どもたちが真摯に取り組む姿勢や活き活きとした表情に感動を覚える場面も多くありました。様々な芸術文化の体験を通じた、地域への愛着・誇りの醸成や、文化を活かした人づくりといった点において、大変意義深い活動になるものと思われると思います。

芸術文化を取り巻く環境は、少子高齢

化や余暇活動の多様化など、社会の著しい変化に直面せざるを得ない状況にあります。子どもたちの豊かな人間形成のため、また市民全体の充実した生活の実現を図りながら、時代の求めに応じた「芸能のつどい」のあり方を検討してまいりたいと思います。

●豊浦小学校 3年
榊原 百香(フラダンス)
(社会教育課 芸術文化係 五十嵐)

わたしはフラダンスを体験して、楽しかったです。おどっている時に、かけ声をだしたり、海で遊んでいる様子などを表しているのが、楽しかったです。



豊浦地区放課後子ども教室(由良)・フラダンス

●上郷小学校 2年
大沼(心胡(文化箏))



上郷小学校・文化箏

わたしは文化ごとのれんしゅうではぜんぜん上手に引けませんでしたが、でも回もやって上手になりました。「じゅうみんのつどい」と「げいのうのつどい」にでてはじめて文化ごとをやりました。

●上郷小学校 4年
板垣 睦生(尺八・文化箏)



尺八は、最初は全然、音が出ませんでした。4年になってから始めて、他の2人よりおそく始めたので、家でもいっぱい練習しました。今では音も出て、7曲もふけます。わたしは、発表でも上手にえんそう出来たし、この活動にも参加出来て良かったです。

上郷小学校・尺八

子ども郷土芸能芸術まつり

未来につづけ文化のやまがた2018

朝日祥雲御山太鼓 出演

旧朝日村熊出地域の若者有志が、地域のお祭りを盛り上げ、若い世代に継承できる環境づくりを目指して平成2年に設立した創作和太鼓集団で小学生を中心とした「若道連」チームの参加でした。大舞台での演奏は子ども達には素晴らしい経験となりました。

- 日 時：平成30年9月9日(日)
- 場 所：やまぎんホール(山形県民会館)
- 主 催：山形県芸術文化協会
- 後 援：山形県





藤島●三浦優子

皆で参加の芸術祭

ふじしま芸術祭は太鼓の演奏から始まり、踊り、歌、ダンス等バラエティ豊かな子どもから大人まで幅広い年齢層での参加。ステージ上では皆キラキラと輝き素敵な笑顔と時折り笑いもありの和気あいあいとした場面もみられました。

書や絵画、創作物、生花のすばらしさに目を見張り、中でも子ども達の作品には感心しきり、年々レベルアップしていると感じられました。



榎引●上野久一

県民芸術祭に

出演しました

第56回県民芸術祭開幕式典「水のファンタジー いのちの輝き」に地区の伝統芸能、丸岡桐箱踊りが出演しました。戦国時代の武将加藤清正公嫡男の忠広公とその御母堂様が丸岡に流され住まわれた時代に、丸岡住民が踊ってなぐさめたと伝えられています。その踊る仕草から田植え踊りとも言われております。榎引西小学校4年～6年生児童を中心に総勢25人で丸岡桐箱踊りを披露し生涯忘れられない記念すべき、すばらしい出演となりました。



温海●木津美加子

感動と感謝の

芸文祭

絵手紙は平成27年春から宮城県富谷市在住の加川師亨先生と交換しながら習っています。画仙ハガキに青墨を筆にとりゆつくりと下絵の線を描いていく。はじめの一枚は椎茸だったと思います。受けとる相手の「今」を想像して言葉を添える楽しさ、難しさ。展示のために描いたものは絵手紙とは言えないよと先生の教えて、掲示したのはすべて宛名面に消印が押されていたものです。下手でいい、下手がいい絵手紙どうぞよろしくお願いします。

《市民の声》 第13回鶴岡市芸術祭におもようごとく

— 順不同 —



羽黒●丸山洋子

羽黒芸能発表会に
参加して

11月初旬は羽黒の秋祭りが開催され、最終日に芸能発表会があり、私たちフランドゥスサークルのマイレシスターズも毎年出演しております。

マイレシスターズは結成して12年になり14名で活動し、様々な行事に出演して観客より喜んでいただき、大変うれしく励みになっています。

芸能発表会は様々な団体、老若男女幅広い年齢層の方がつどい交流ができとても有意義だと思います。



朝日●波谷晃子

芸術と文化の
秋を満喫

あさひ産業文化まつりのステージ部門は、それぞれの団体が日頃の芸術活動の成果を思う存分発揮し、素晴らしい発表でした。展示部門は、今年も書道や絵画をはじめ様々な作品があり、子どもからお年寄りまで多くの人で賑わっていました。なかでも、同時開催された「朝日俳句・短歌・川柳合同展」の子どもたちの俳句は、朝日地域のことが含まれているものが多く、ユーモアもあり、大変楽しく鑑賞させていただきました。



鶴岡●山崎香枝

暮らしを彩る
芸術の街

芸術祭の開幕記念公演と幾つかの公演を拝見しました。あんなにも多くの人々が公演に携わり、支え、盛り上げ、そして楽しんでることに改めて感動を覚えました。誰もが気負いなく表現者となり観賞者となる。それを容易に可能とする土壌が脈々と培われてきたことに、文化の歴史を感じます。一歩踏み出せば、とても身近な所に芸術があり、日々の暮らしを生き生きと彩ってくれる。それがこの鶴岡という街の魅力かもしれません。

特定非営利活動法人 鶴岡市芸術文化協会への加盟のご案内

現在、鶴岡市芸術文化協会は「67団体（うち、5地域）」の加盟団体で構成されております。

鶴岡市の芸術文化活動の輪が、更に大きく広がることを望み、芸術・文化活動をされている団体の新規加盟を募集しております。

- ◆年会費（正会員）団体 5,000円
- ◆入会についてのお問合せは、下記事務局へご連絡ください。

特定非営利活動法人 鶴岡市芸術文化協会事務局
〒997-0346 鶴岡市上山添字文栄100番地 鶴岡市榎引庁舎内
Tel : 0235-57-2008 Fax : 0235-57-2117
E-mail : tsurugeibun@tiara.ocn.ne.jp

編集後記

せつかくの春を控えながら、手元には難産気味のこの「芸文だより第8号」を抱え、やや気が重くなっていた。

そんな時、2月末にはインフルエンザでもなく流行風邪でもない、自分の不摂生による風邪を引いて高熱を発し、医者にも行けず熱が下がるのを待ちながら2日間寝かせてもらった。

気が焦る時期ではあったが、9度近い熱のため横になれば眠れたので、いい休養になったと思えなくもない。

編集委員の皆さんには多大な迷惑をかけたが、例年に比べ少し遅れた程度で無事発行にこぎ着けることができ、また、加盟各団体の芸術祭公演の実績報告には、いつものことながら感謝すること頻りである。（加賀山捷三）